

指導資料



鹿児島県総合教育センター

特別支援教育 第159号

—小学校，中学校，特別支援学校対象—

平成22年10月発行

知的障害のある児童生徒に対する キャリア教育の進め方

特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）では、「職業教育に関して配慮すべき事項」において、新たにキャリア教育の推進という視点が加わった。特別支援学校においても、知的障害のある児童生徒一人一人に応じた勤労観・職業観を身に付け、社会人、職業人として自立していくことができるようにするためのキャリア教育の推進が重要な課題となっている。

そこで、本稿では知的障害のある児童生徒に対するキャリア教育の意義や考え方、その進め方について述べる。

1 基本的な考え方

(1) 知的障害のある児童生徒に対するキャリア教育の意義

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成16年1月）の中でキャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲や態度、能力を育てる教育」と定義されている。

知的障害のある児童生徒にとっても、

その年齢や生活場面などによって、様々な役割が求められる。その役割を積極的に果たそうとする意欲や態度、また、現在及び将来の生活に必要な力を、児童生徒の実態に応じて、段階的に身に付けさせることが必要である。そのためには知的障害のある児童生徒の全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を、キャリア教育の考え方を踏まえ、学校全体として積極的に進めることが重要である。

(2) 知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観の育成

キャリア教育とは、端的には「児童生徒の一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」と言われている。知的障害のある児童生徒にとっての勤労観は、社会生活、家庭生活に主体的に参加し、自らの役割を果たそうとする意欲や態度、そのために必要な力を身に付けることで育てることができる。そして、この勤労観を基盤に、職業的な自立に必要な態度や力などの職業観を児童生徒一人一人の実態に応じて育てることが大切である。

図1は、岩手県総合教育センターがま

とめた、各学部段階における勤労観・職業観の育成のために必要な力の指導・支援の割合について示したものである。このように、勤労観・職業観の育成は、児

童生徒の卒業後を見通して、それぞれの発達段階に応じて、取り組むべき課題が整理できる。

2 各学部段階における系統的なキャリア教育の推進

児童生徒の卒業後を見通し、一貫性のある指導・支援を進めるためには、各学部段階において育てたい態度や力などを明確にする必要がある。表は国立特別支援教育総合研究所（平成20年）がまとめた知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」を基に、各学部段階で育てたい力を整理したものである。

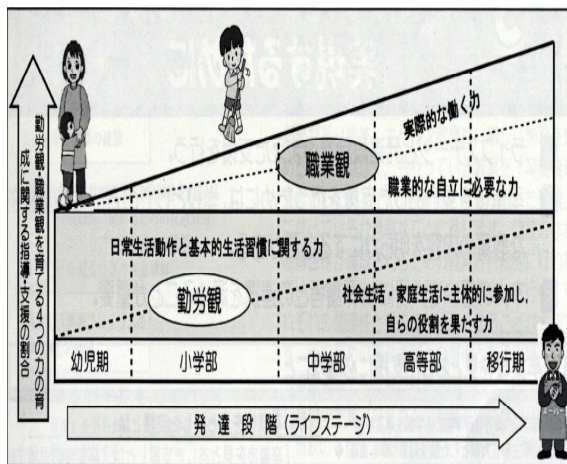


図1 勤労観・職業観を育てる指導・支援の割合

表 各学部段階において育てたい力

	小学部段階	中学部段階	高等部段階
キャリア発達段階	職業及び生活にかかわる基礎的スキル獲得の時期	職業及び生活にかかわる基礎的スキルを土台に、それらを統合して働くことに応用するスキル獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要なスキルを実際に働く生活を想定して具体的に適用するためのスキル獲得の時期
職業的（進路）発達にかかわる諸能力	小学部段階において育てたい力	中学部段階において育てたい力	高等部段階において育てたい力
人間関係形成能力 他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら様々な人々とのコミュニケーションを図り、協同・共同して物事に取り組む。	幼児期からの遊びを中心とした発達全体の促進	・自己理解	
		・他者理解	
		・集団参加	
		・協力、共同	
		・あいさつ、清潔、身だしなみ	・場に応じた言動
情報活用能力 学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	・様々な情報への関心	・情報収集と活用	
	・社会のきまり		・法や制度の理解
	・金銭の扱い	・金銭の管理	・消費生活の理解
	・役割の理解と分担	・働くことの意味	
将来設計能力 夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。		・役割の理解と実行	
	・習慣形成		
	・夢や希望		
		・生きがい、やりがい	
		・進路計画	
意思決定能力 自らの意思と責任でよりよい選択、決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	・目標設定		
	・選択	・選択（決定、責任）	
	・振り返り	・肯定的な自己評価	
			・自己調整

- (1) 小学部段階において育てたい態度や力
小学部では、職業観の基盤となる勤労観を育てることが重要になる。そのためには、児童一人一人の実態に応じて基本的な生活習慣や日常生活を遂行するための基本的動作を獲得することが目標となるとともに、自分のことを自分でやろうとする意欲や態度もはぐくむことが大切になる。また、身近な教師や友達とのかかわりや、学部や学級といった集団への参加などを通して、自分の意思を表現したり、ルールを守るといった経験をしたたりすることも必要になる。

小学部は、児童の全体的な発達を促進するとともに、毎日の学校生活の充実を図りながら、実態に応じて将来に対する夢や希望がもてるようにする段階である。

- (2) 中学部段階において育てたい態度や力
中学部では、小学部段階で身に付けた力を基盤に、家庭生活、社会生活に主体的に参加し、自らの役割を果たす力を身に付けていく。身近な教師や友達とのかかわりだけでなく、学校内外の様々な人とのかかわりの中で、自分の役割を理解し、互いに協力する態度を養い、社会の中で生活する力を伸ばしていくことが大切である。

また、中学部になると多くの特別支援学校では作業学習に取り組む。作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。このような生産的な学習活動を通して、実際的に働く力を

身に付けさせるとともに、物を作る喜びや働く意欲などをもたせることが生徒一人一人に応じた職業観をはぐくむことになる。

中学部は、生活経験を更に積み重ね、社会生活や将来の職業生活の基礎的な内容を学ぶ段階である。

- (3) 高等部段階において育てたい態度や力
高等部では、社会生活の中で適応できるように、これまで身に付けてきた実際的な働く力を更に高めていくことが重要である。そのためには、実際の場面で行えるようになることを目標にするとともに、できないことがあった場合はどのように対処すればいいかという現実的な対応も身に付ける必要がある。

特に、卒業後の進路との重要な関係のある教育活動としての「産業現場等における実習」等を通して、現実的な条件下で、生徒の職業適性等を明らかにし、職業生活、社会生活への適応性を養うことが大切である。

高等部は、中学部段階まで培ってきた様々な力を土台に、自らの適性ややりがいに基づいた意思決定力、働くことの知識・技術の獲得と必要な態度の形成などを図る段階である。

3 キャリア教育の視点を踏まえた教育課程の改善

各学部段階で明確にした育てたい態度や力などを実際に児童生徒に身に付けさせるためには、学校の教育課程をキャリア教育の視点で見直すことが必要である。キャリ

ア教育の視点とは、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援するという側面から各学部段階の指導内容や方法等を検討しようとする見方である。図2はキャリア教育の視点を踏まえた教育課程の改善の手順についてまとめたものである。

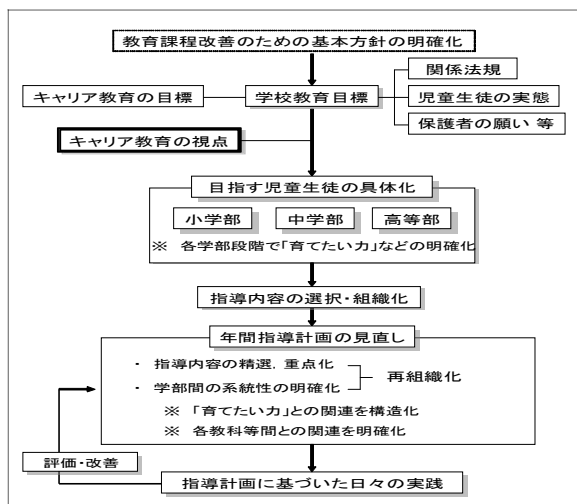


図2 キャリア教育の視点を踏まえた教育課程改善の手順
教育課程の改善においては各学校、児童生徒の実態等に応じて抱えている課題も多様であることから、学校独自の基本方針が設定されることになる。全教職員が共通理解の下、組織的に行うことが必要である。

年間指導計画等の見直しにおいては、特に小学部から高等部まで指導内容の系統性や関連性を十分に考慮したい。各学部段階での育てたい態度や力などを踏まえて、現在及び将来における児童生徒の実生活的な生活に結び付くような具体的な指導内容を設定することが大切である。

4 児童生徒一人一人に応じたキャリア教育の推進

児童生徒一人一人に応じたキャリア教育を進めていくためには、学校全体として系統的な指導・支援が展開されること(教育

課程の改善)と児童生徒一人一人に応じた系統的な指導・支援を行うためのシステムが必要である。

児童生徒一人一人の教育的ニーズを基に乳幼児期から学校卒業後までを見通し、長期的な視点で作成される「個別の教育支援計画」や、学校の教育課程に基づき児童生徒一人一人の実態等に応じて指導内容を具体化した「個別の指導計画」の作成・活用が求められる。それらが児童生徒や保護者の思いなどにこたえ、学校卒業後を見通した系統的な指導・支援の計画になっているかどうか教育課程と併せて見直しを図りたい。教師には、児童生徒の思いなどを将来の豊かな生活につながる具体的な姿にどのように結び付けるのか、そのために現在、どのような態度や力を育てなければならないのかなどを確実に見極めることが必要となる。

キャリア教育が目指すものと、これまで知的障害のある児童生徒の教育において大切にしてきた児童生徒一人一人に応じた「自立」への取組と大きな違いがあるわけではない。各学校においてはキャリア教育の視点で現在の教育活動全体を見直すことで、これまで以上に児童生徒一人一人に応じた「自立」を目指し、学校入学から卒業までを見通したつながりのある指導・支援を組織的に展開していくことが可能となるのである。

ー引用・参考文献ー

岩手県総合教育センター特別支援教育室 『特別支援学校(知的)キャリア教育推進ガイドブック』
理解編, 実践・資料編 平成20年3月
国立特別支援教育総合研究所 『知的障害者の確かな就労を表現するための指導内容・方法に関する研究』 平成20年3月
全国特別支援学校知的障害教育校長会 『特別支援教育のためのキャリア教育の手引き』
平成22年3月 ジアース教育出版
(特別支援教育研修課)